

全国中学校ソフトテニス大会における選手・監督等に関する諸規定のまとめ

平成27年8月（山形全中時の会議による）

※本年度の変更点については朱書している。

本稿作成の趣旨について

各ブロック大会、および各都道府県総体等では全中大会の規定に準じて競技を実施しているところが多い。それは最上位の大会の全中大会に出場した際に規定違反にならないように配慮をしているからだと思われる。全中大会の規定については毎年、全中大会の折に開かれる競技部会で話し合いが行われ、規定の追加、変更等がおこなわれている。その内容について各ブロックへはブロック長が、ブロック内の各都道府県へは各都道府県の委員長が周知をしているところであるが、時間がかかり内容の伝達について必ずしも正確に伝わらない場合もあったため正確を期し、迅速に伝わることを目的として本年度、諸規定をまとめることとした。

※暑い時期の大会のために配慮している事項もあるので、必ずしもそのまま他の時期の大会に適用することがふさわしくないこともありうる。

全中大会の目標について

全中大会には長い歴史があり、ソフトテニスは第46回を数えている。目的には『この大会は、中学校教育の一環として中学校生徒に広くソフトテニス競技実践の機会を与え、技能の向上とアマチュアスポーツ精神の高揚を図り、心身ともに健康な中学校生徒を育成するとともに、中学校生徒の相互の親睦を図るものである。』とある。全中大会をはじめ中学校体育連盟の大会はあくまでも中学校教育の一環であり、授業の一環であるという位置づけである。よって大会の参加にあたってはみだりに流行りに流されることなく中学生らしい参加のあり方が望まれる。その趣旨は全中大会の諸規定を決める上で反映されている。また、大会参加においては競技の勝敗のみでなくマナーの遵守についても留意する必要がある、選手・監督・外部指導者（コーチ）・保護者を含めてさらにマナーの向上が望まれる現状にある。

大会要項から（必要箇所を抜粋）

7 参加資格

- (1) 選手は、都道府県中学校体育連盟加盟の中学校に在籍する生徒で、校長及び都道府県中学校体育連盟会長が参加を認めた者とする。
- (2) 年齢は、平成13年（2000年）4月2日以降に生まれた者に限る。（平成28年度大会）
- (3) 前項以外の生徒が参加を希望する場合は、平成28年6月30日までに、各都道府県中学校体育連盟を通して、（公財）日本中学校体育連盟に申し出ること。
- (4) ブロック代表またはブロック中学校体育連盟の推薦を受けた一校単位で編成されたチームおよび個人とする。また、開催地は、団体戦男女各1チーム、個人戦男女各2ペアの参加を認める。
- (5) 平成28年度全国中学校体育大会（夏季大会）の他の競技に出場していない者とする。
- (6) 団体戦は、男女とも同一校の選手6名以上8名以内（対戦の過半数を超える場合は可とする）と監督1名で構成する。
- (7) 個人戦は、男女とも同一校の選手2名と監督1名で構成する。
- (8) 同一選手が団体戦および個人戦とを兼ねてもよい。
- (9) 参加資格の特例
 - ① 学校教育法第134条の各種学校（1条校以外）に在籍し、都道府県中学校体育連盟の予選会に参加を認められた生徒であること。
 - ② 参加を希望する各種学校は以下の条件を具備すること。
 - ア 全国大会の参加を認める条件

- (ア) (公財) 日本中学校体育連盟の目的及び永年にわたる活動を理解し、それを尊重すること。
 - (イ) 生徒の年齢及び修業年限が我が国の中学校と一致している単独の学校で構成されていること。
 - (ウ) 参加を希望する学校にあつては、運動部活動が学校教育の一環として、日常継続的に当該校顧問教師の指導のもとに、適切に行われていること。
- イ 全国大会に参加した場合に守るべき条件
- (ア) 全国大会開催基準を守り、出場する競技種目の大会申し合わせ事項等に従うとともに、大会の円滑な運営に協力すること。
 - (イ) 全国大会参加に際しては、責任ある当該校校長または教員が生徒を引率すること。また、万一の事故発生に備え、傷害保険等に加入するなどして、万全の事故対策を立てておくこと。
 - (ウ) 全国大会に要する経費については、必要に応じて、応分の負担をすること。

(10) 個人情報の取り扱い (利用目的)

大会の主催者は、個人情報保護に関する法令を遵守し、(公財) 日本中学校体育連盟「個人情報保護方針・規程」に基づき、取得する個人情報について適正に取り扱う。また、取得した個人情報は、競技大会の資格審査・競技大会運営上必要なプログラム編成及び作成・ホームページ・掲示板・報道発表・記録発表(記録集)等、その他競技運営および競技に必要な連絡等に利用する。大会に参加する各選手はこれに同意する。

8 参加料

参加選手一人につき、3,000円とする。

9 引率者・監督および外部指導者 (コーチ)

- (1) 参加生徒の引率者・監督は、出場校の校長・教員とする。
- (2) 全国大会では外部指導者(コーチ)をおくことができる。外部指導者(コーチ)は、出場校の校長が認めた者とし、所定の「外部指導者(コーチ)確認書」に必要事項を記入し、大会事務局に参加申し込み時に提出すること。ただし、当該校以外の中学校教職員は、外部指導者(コーチ)になれない。また、同一人が複数校の外部指導者(コーチ)にはなれない。
- (3) 引率者の特例
全国中学校体育大会の個人種目への参加について、校長・教員が引率できず、校長がやむを得ないと判断した場合に限り、「全国中学校体育大会引率細則」により、校長が引率者として承認した外部指導者(コーチ)の引率を認める。
- (4) 監督は1ペアまたは1チームに対し、出場校の校長もしくは教員1名であること。ただし、個人戦に2ペア以上出場する学校の場合は、出場ペア数までの監督をおくことができる。この場合も出場校の校長・教員であること。(上記(3)で承諾された監督は別とする。)
- (5) 監督の追加・変更は、所定の「監督追加・変更届」に必要事項を記入し、ブロック長を通じて監督会議前に大会事務局に申し出ること。
- (6) 監督は必ず監督会議に出席すること。
- (7) 外部指導者(コーチ)の追加・変更は所定の「外部指導者(コーチ)確認書(校長承認書)」と「外部指導者(コーチ)追加・変更届」に必要事項を記入し、大会事務局に申し出ること。(原則として監督会議前)(※外部指導者(コーチ)については、別紙参照)

10 参加数

団体戦:男女各25チーム 個人戦:男女各64ペア

地区	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	開催地	合計
団体	2	2	4	2	3	3	3	2	3	1	25
個人	4	6	13	5	7	8	6	5	8	2	64

11 競技規則

現行の(公財)日本ソフトテニス連盟「ソフトテニスハンドブック」および大会要項による。

12 競技方法

- (1) 団体戦 トーナメント方式の3ペアによる点取り法とする。
- (2) 個人戦 トーナメント方式とする。
- (3) ゲーム数 7ゲーム
- (4) 使用球 公認球(白色)を使用する。なお、使用球については大会事務局で決定するが、ボールは男子と女子で隔年ごとに変える。(平成27年度は、男子ケンコーボール、女子アカエムボール)
- (5) 荒天等の理由により、競技方法およびゲーム数等を変更することがある。

13 表彰

- (3) 表彰式には、監督もしくは外部指導者(コーチ)も必ず出席すること。

14 参加申込

- (4) 申込方法
所定の参加申込書に必要事項を記入し、下記の手続きに従って申込を行うこと。
 - ① ブロック大会への各都道府県代表となった時点で、代表校は別紙参加申込書(1部)を作成する。参加申込書は、都道府県中学校体育連盟、もしくは都道府県中体連専門部競技委員長(部長)がまとめてブロック大会開催事務局に送付する。

16 宿泊

- (1) 宿泊については、別紙宿泊要項による。適切な危機管理対応(感染症・自然災害等)を確保するため、必ず大会実行委員会指定の業者を通して申し込むこと。(指定外の宿泊施設の利用は、原則として認めない。)

17 出場規定

- (1) 服装 競技中および開会式・閉会式・表彰式では次のとおりとする。
 - ① 選手
 - ア ユニフォームについては、上は襟付き半袖スポーツシャツ、下は膝より上のパンツ・スカートを着用すること。ただし、服装(用具を含めて)の色は華美(蛍光色等)にならないようにする。上記の服装から出るアンダーシャツやスパッツの着用は認めない。競技中、シャツの裾を外へ出したり袖をまくることはしない。また、ユニフォームには文言や記号を後から記入もしくは印刷し、使用してはいけない。
 - イ ソックスの長さについては、くるぶしより上で、ハイソックスは認めない。
 - ウ テニスシューズを使用する。
 - エ ハチマキには正面に特別な文言や記号を後から記入もしくは印刷し、使用してはいけない。ただし、ハチマキの端の部分に「学校名・名前」を記入してもよい。帽子、サンバイザーもこれに準ずる。
 - オ 背中のゼッケンを各校で別の布などで作成し、背中に縫いつけること。着脱しやすいようにホック、マジックテープ、安全ピンで四隅をとめることは可とする。すでにプリントされている文字は隠すようにとめつけるものとする。
 - (ア) ゼッケンはB5版横(白地)の大きさの布に都道府県名、学校名、姓を記述する。都道府県名の「都府県」の文字はつけないものとする。中学校名は「中」と表記する。
 - (イ) ゼッケンの文字は「漢字」、「ひらがな」、「カタカナ」を使用し、文字色は「黒」とする。シャツそのものへのプリントは認めない。
 - (ウ) 都道府県内で同名の中学校がある場合には、区別をするために中学校名の表記の工

夫をしても良い。

(エ) ゼッケンの文字の位置は《例1》どおりとし、同一校に同姓の選手がいる場合には、名前の一部も付け加える。

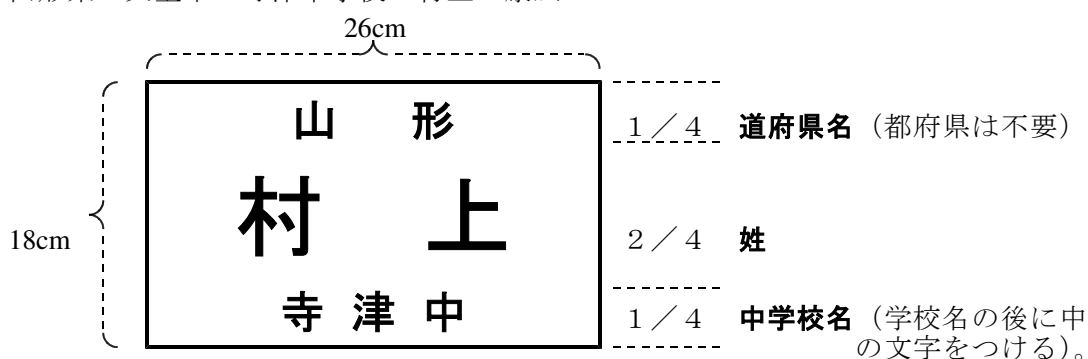
(オ) 中学校名が第一・第二中学校や東・西・南・北中学校のような場合には、学校名をわかりやすくするために、《例2》のように学校所在地を付記してもよい。

(カ) 学校名が「〇〇中学校」の場合は〇〇中と表記し、それ以外の「〇〇学園中等部」等の学校については中をつけずに、適当な表記で表現する。~~ただし、中の文字のない表記も可とする。(平成28年度からは、不可とする。)~~

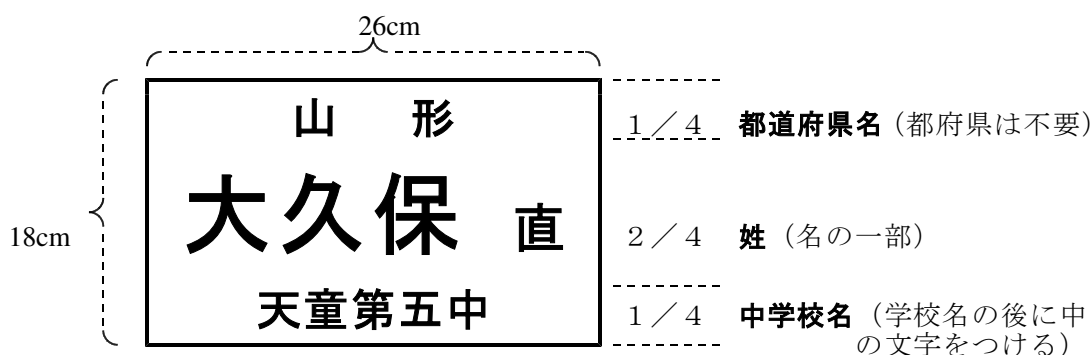
(キ) 下図のように(公財)日本ソフトテニス連盟で示されている三段とする。~~ただし、従来の三段表記も可とする。(平成28年度からは不可とする。)~~

【選手のゼッケン】

《例1》 山形県 天童市立寺津中学校 村上 康広



《例2》 山形県 天童市立第五中学校 大久保 直道



② 監督・外部指導者(コーチ)

ア ベンチ入りおよび開会式・閉会式・表彰式のときは、襟付きスポーツシャツを着用する。

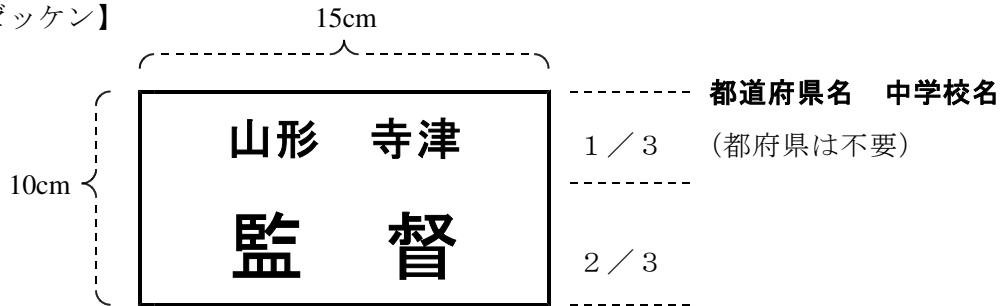
イ テニスシューズを使用する。

ウ 胸にゼッケンをつけること。

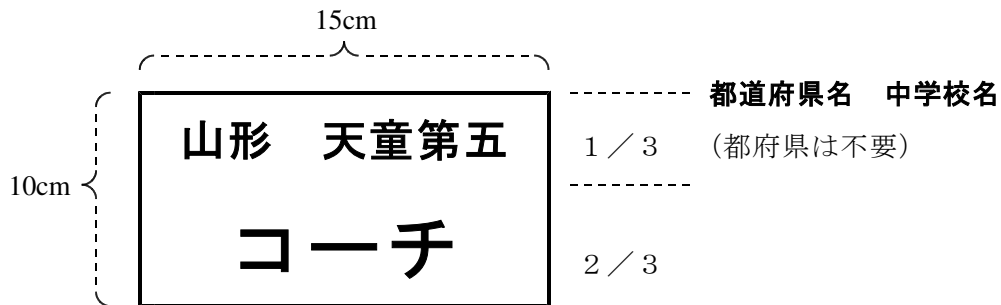
(ア)ゼッケンの大きさは縦 10cm、横 15cm の布製とする。都道府県名、中学校名(校名の後に「中」の文字はなくてもよい。、「監督」または「コーチ」と記述する。

(イ)都道府県名、中学校名の表記の仕方は、選手に準ずる。「中」はつけなくてもよい。また、文字、生地の色は特に指定しない。

【監督のゼッケン】



【外部指導者(コーチ)のゼッケン】



(2) 選手変更について

- ① 個人戦で、1名が病気等で出場不可能となった場合には、メンバー変更を出場校の校長よりブロック長を通して原則として監督会議が始まるまでに大会本部に届け出る。
- ② 個人戦で、そのペアの2名ともが出場不可能な場合には、ブロック大会の成績に基づいてブロック長が次のペアを推薦し、大会本部に届け出る。
- ③ 団体戦で、申込後にメンバーを変更する場合には、出場校の校長よりブロック長を通して大会本部に届け出る。原則として監督会議が始まるまでとし、その後の変更は認めない。

(4) 大会受付

- ① 個人戦、団体戦ともに開会式に参加すること。

(5) 大会期間中の負傷、疾病については応急処置のみ行う。また、本大会は独立行政法人日本スポーツ振興センター法の定めを適用する。なお、大会参加者は健康保険証を持参することが望ましい。

競技上の注意から

(できるだけ重複を避け、必要箇所を抜粋)

6 団体戦について

(1) 3ペアの点取り対抗戦とし、2点を先取したチームを勝者とするが、いずれかが初戦の場合は3マッチすべて行う。

(7) サービス(レシーブ)とサイドの決定は、コートでのマッチの挨拶後に行う。

(8) 控えの選手は、ベンチに座って応援すること。

7 個人戦について

(4) 当日緊急の選手変更(1名のみ)がある場合は、ブロック長の承認を得て個人戦当日の大会本部が指定した時刻までに、書面で監督が競技委員長に提出する。

8 監督(コーチ)について

(1) 団体戦・個人戦ともに監督(当該校の校長・教員)または外部指導者(コーチ)1名のベンチ入りを認める。

- ・団体戦を2面同時展開で行う場合は、ベンチは中央に置く。(1試合が残った時点でベンチはそのコートへ移動してもよい。)

- ・個人戦で2ペア以上出場し、同時にマッチが行われている場合は、隣接するコート（ベンチが反対でも可）であれば、選手は監督（コーチ）の助言を聞きに行くことができる。しかし、コートが離れている場合は監督（コーチ）のもとへは行けない。その場合は、監督（コーチ）がベンチを移動して助言することができる。ただし、一度離れたベンチには再び戻ることはできない。
- (2) マッチ中に選手に助言する場合は、サイドのチェンジおよびファイナルゲームに入る前のインターバルの1分以内とし、監督（コーチ）が所定のベンチで行う。なお、それ以外の監督（コーチ）および応援者による指示（ブロックサイン等を含む）は禁止する。
- (3) マッチ中にコート内での通信機器等の使用はしない。
- 9 服装について
 - (2) 選手の腕等へのペイント・文字の書き込み、装飾品（ミサンガ等）は禁止する。
- 10 応援について
 - (1) プレーをスムーズに進行させるため、アンパイヤーのコールを妨げたり、プレーに支障をおよぼすことがないようにすること。相手を不快にさせたり、他のコートに迷惑がかかる応援をしたりした場合、1回目は注意、以後度重なる場合は応援団を退場にする必要がある。
 - (2) 個人戦では、声やリズムをそろえての集団応援は行わない。
 - (3) 音の出る道具を使用しての応援はしない。
- 11 その他
 - (1) ソフトテニス場内へのクーラーボックス、傘等（日傘を含む）の持ち込みは、大会本部の指示に従う。
 - (2) 部旗や応援横断幕の掲出は、大会本部が指定する場所のみ可とする。（会場によっては掲出できない場合もあり得る。）

外部指導者（コーチ）に関わる確認事項

- 1 服装
 - ・服装は監督に準じて、規定通りでベンチに入ること。
- 2 活動の内容とその制限
 - ・外部指導者（コーチ）は、ベンチでは監督代行であるが、監督会議には引率教員が出席すること。
 - ・外部指導者（コーチ）は、指定されたゼッケンを胸につけ、引率教員のもとで活動すること。
 - ・選手招集場所へは、選手とともにベンチ入りする者が行くこと。
 - ・外部指導者（コーチ）がベンチに入る場合は、当該校の教員が必ずそのベンチ近くに待機すること。※当該校の教員がつかない場合は、外部指導者（コーチ）はベンチ入りできない。
- 3 資格の取り消し
 - ・外部指導者（コーチ）に、資格違反や不適切な言動があった場合は、その資格を取り消す。

「監督会議資料」から抜粋

《審判部より》

- 1 プレーヤーは、シャツの裾を出す、袖をまくる等をしないで、服装を整えて整列・プレーするよう心がけること。ウェアからはみ出すアンダーシャツは着用できない。（ハイネック・長袖不可）
- 2 コート内へのクーラーボックス・スクイズボトル等の持ち込みは、入退場がスムーズに行えるよう配慮すること。
- 3 マッチは、開始の挨拶から終了の挨拶まで、連続的にプレーすること。なお、審判の「レディー」「レッツプレー」のコールで、速やかにプレーの位置につくこと。

- 4 選手の給水については、サービスのチェンジ、ファイナルゲームの2回目以降のサイドチェンジの際にも認めるが、ベンチに戻っての給水は認めない。あらかじめ審判台の下に置いておくこと。
- 5 身体上の理由により、マッチを中断する場合は、監督または外部指導者（コーチ）、大会本部救護係の手当を認める。その際、マッチを中断した時点から、タイムとして計測する。
- 6 サイドチェンジ及びファイナルゲームに入る前の助言は、前のゲーム終了時の審判のコールから1分を越えないように次のゲームの準備をすること。計測は審判のコールがあってから行い、45秒時点で「レッツプレー」とコールする。助言はプレーヤーをベンチに座らせて行うこともできる。その際、監督（コーチ）はベンチに座って行うか、プレーヤーの前にしゃがんで行うこと。
- 7 集合時刻になっても招集場所に選手が集合しない場合は、5分後に「警告」、それでも集まらない場合は5分後に2回目の「警告」、それでも集まらない場合は5分後にレフェリーの判断で「失格」とする。団体戦の場合、警告回数は第一マッチのペアに累積する。
- 8 団体戦において2面展開の場合、第一マッチもしくは第二マッチの対戦が終了しなくても、どちらかのチームが2勝した時点で終了とする。
- 9 団体戦において2面展開の場合、「監督」席はコートの中にベンチを用意するので、そこに座ること。最終マッチのみとなったら、タイミングを見て、コート所定の位置へベンチを移動してもよい。
- 10 応援者は、観客席がある場合は座って行う。通路及び観客席からプレーヤーへの助言は行わない。
- 11 椅子の持ち込みは認めない。
- 12 帽子はキャップ・サンバイザーのみ認め、ハットは不可とする。
- 13 ゼッケンは縫いつけ、またはスナップ、安全ピン等で四隅をとめることとする。
- 14 コート内での応援は、必ず座って行う。

《競技部より》

- 1 個人戦について
 - ①選手変更（1名のみ）がある場合は、ブロック長を通して、監督会議が始まるまでに参加選手変更届を大会本部に提出する。
- 2 団体戦について
 - ①選手変更がある場合はブロック長を通して、監督会議が始まるまでに、参加選手変更届を大会本部に提出する。

《総務部より 式典について》

- 2 外部指導者名での優秀指導者表彰を希望される場合は、授与者変更届を提出する。変更がない場合には「なし」と記入して提出すること。
- 3 5位表彰は簡易表彰で行う。

《総務部より 弁当・救護・宿泊について》

- 2 本大会の救護体制は、本大会医療救護要項に従って行う。健康観察記録（様式有り）を各校、毎日記録すること。場合によっては、本部に提出する。また、病院で受診した場合は、受診報告書（様式有り）を提出する。

《競技部施設会場係より》

- 4 観客席での日傘は、白・シルバー等プレーに支障をきたすおそれのあるものの使用は禁止する。また、フラッシュを使つての撮影も禁止する。

競技部会の議事から (できるだけ重複を避け、必要箇所を抜粋)

- 団体戦の応援は座って行う。けが防止のために、次の試合の選手は、マッチに支障にならないベンチ近くでのアップを認める。ただし、アップ目的で席を立った場合は、団体戦の一斉応援に参加はできない。立って一斉応援に参加した場合は、1回目はアンパイヤーから注意する。2回目は警告(イエローカード)を与える。
- 団体戦のエールの交換は、基本的には認めるが、時間短縮のため両方同時に行うのが望ましい。
- 試合中の監督は原則としてベンチに着席する。一度退席した場合は戻れないが、体調不良等の場合はその限りではない。
- 試合終了後、プレーヤーが相手監督にアドバイスを聞きに行く場合は、解散してから行う。コート上でアドバイスを聞くことは禁止する。
- 原則としてペアのユニフォーム、団体のユニフォームは揃っているのが望ましい。
- 学校に帯同しているトレーナーの処置はコート外でしていただく。
- 試合の流れを変えるためにタイムをとることは認めない。靴紐を結び直すことについても同様に遅延行為として警告の対象とする。
- うちわの使用はベンチで選手を扇いでやるために使うのは可。ベンチで監督や選手が自分を扇ぐのに使うのは不可。監督が立ち上がって行うのも不可。
- 全中では外部指導者の人数に制限を設けていない。
- 身につけるサポーター類、リストバンド等については大会要項の『服装(用具を含めて)の色は華美(蛍光色等)にならないようにする。』の文言に準ずる。サポーターはブロックによっては医者の方のある場合のみに認めているところもあり、監督会議等で申し出るようにしているところもある。
- 色つきのガットは認めるが単色とし、縦と横を違う色で張り分けたりすることは認めない。
- 相手のミスに対して「もうけ」「大もうけ」「ありがとう」といったような相手を揶揄するような言葉を使う選手がいたり、応援があったりする。今後そのような言動は慎む。また、保護者等コート外からの応援にも配慮を求める。

ソックスの例について

《良い例》



《悪い例》

